

## 自己紹介（高部英明）

大阪大学レーザーエネルギー学研究中心・教授、大阪大学理学研究科物理学専攻および宇宙地球科学専攻協力講座・教授

1953年2月17日、大分県生まれ。1975年大阪大学工学研究科電気工学科卒業、80年大阪大学工学研究科電気工学専攻終了・工学博士。西ドイツ・マックスプランク研究所研究員、米国アリゾナ大学助手、大阪大学レーザー核融合研究中心助手、89年講師、91年助教授、97年より現職。

専門はプラズマ物理学、計算科学、宇宙物理学。

2000年フェローの称号（米国物理学会）、03年エドワード・テラー・メダル受賞（米国原子力学会）、06年名誉教授の称号（中国国家天文台）。

著書に『さまざまなプラズマ』（岩波書店、2004）、『物理学大事典』（共著、朝倉書店、2005）などがある。

現在、アジア太平洋物理学会連合理事（<http://www.aapps.org/>）

私は大分県宇佐市の出身で、大学入学時は理学部と工学部の違いも良くわからなかった。学生時代は哲学や文学など読書に浸る。4年生でレーザー核融合の研究に魅せられ、修士1年で三間先生と出会い、研究者になることを決意した。学位取得後、ドイツ、米国での研究生活を送ることができ、人間として研究者としての生き方に大きな影響を受けた。帰国後はレーザー核融合研究に専念。特に複雑な物理が絡み合う物理統合型のシミュレーション・コードの開発に心血を注いだ。87年、超新星1987Aの爆発をきっかけに宇宙物理分野にも研究を広げる。92年頃から核融合用の大規模レーザーを用いて宇宙の模擬実験を行い、極限物理を検証する「実験室宇宙物理学」という新分野を提唱。苦節有余年の後、センターのプロジェクト「レーザー宇宙物理」として文科省予算を獲得、07年度から本格的に研究分野開拓を開始した。現在、4つのサブ・プロジェクトの責任者。02年、物理学会理事に就任、世界物理年行事などを推進。05年にはアジア太平洋物理学会理事に選出され、現在、その活性化を進めている。家族は妻と息子（大学院修士2年）と娘（大学3回生）。6月3日よりスポーツジムの会員になり妻と体力維持と体型スリム化のため通い始めた。趣味は乱読に近い読書。最後に、高部が書いてきたエッセーや旅行記など下記のHPに多数あり。「博覧博聞記」に時折の主張を書いてきた。

<http://homepage2.nifty.com/AkiTakabe/>



高部近影：06年6月、欧州物理学会に出席した際、旧友とローマのトレヴィの広場近くのレストランにて。